

WebSync ～ビデオ映像・音楽 CD と WWW の連携システム～

デモ10

大泉 俊雄 的場 ひろし 前野 和俊

NEC C&C メディア研究所

1.はじめに

本論文では、ビデオ映像(リアルタイムなTV放送映像や、VTR蓄積された映像など)や音楽CDと、WWW(ホームページなど)との連携を可能にするPCベースのシステム"WebSync"の概要について説明し、その実用化の現状について紹介する。

ビデオ映像や音楽CD(以後、まとめてソースと呼ぶ)は、通常単一のメディアとして提供されるが、WebSyncを利用することによって、近年多彩な表現力を持つに至ったホームページと組み合わせることで、新しいマルチメディアコンテンツとして提供することが可能になる。

2.WebSync システムの概要

図1にWebSyncシステムのプロットを示す。WebSyncではソフト的にソースとコンテンツ(運動する一連のホームページの集合)間の連携(ソースの再生進行に合わせたホームページの同期表示)を行う。その技術的基盤としては、シナリオ記述によるメディア間連携方式、VTR等のアナログソースの再生状態を検出するための音声パターンマッチング技術、複数のソースとコンテンツ間での有機的な相互リンク管理機構などが挙げられる。

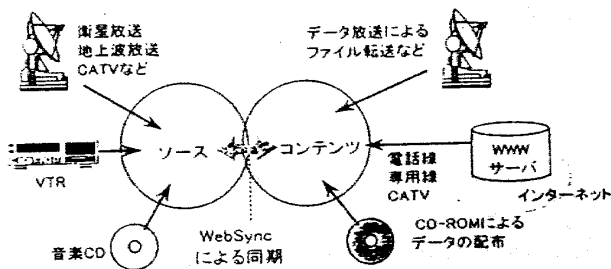


図1. WebSync システムの概念図

WebSyncによるコンテンツ提供サービスは、以下の特徴を持っている。

- (1) 既存のソース提供方式(放送方式、データフォーマット等)を変更する必要がない。
- (2) デジタルソースに加えて、ビデオテープのようなアナログソースにも対応可能ある⁽¹⁾。
- (3) ソースとコンテンツの提供者を分離でき、提供時期も独立に設定できる。

WebSync:

A System for Synchronization of Video/Music and WWW
Toshio OIZUMI, Hiroshi MATOBA, Kazutoshi MAENO
C&C Media Research Laboratories, NEC Corporation
4-1-1 Miyazaki, Miyamae-ku, Kawasaki, 216-8555, Japan
{ohizumi.matoba.maeno}@ccm.cl.nec.co.jp

- (4) 1つのソースに対する複数種類のコンテンツの提供、複数のソース間でのコンテンツの共用が可能である。

3.WebSync のサービス例

現在、WebSyncは、Netscape Navigator、Internet Explorer上で動作するPlug-inとして実装されている⁽²⁾。

図2は、ビデオ映像と運動しているWebSyncコンテンツの画面例(1998年1月にDiscovery Channelで放送されたTV番組「Titanic ～タイタニック号悲劇の検証～」で実際に公開されたコンテンツの一部)である⁽⁴⁾。画面左半分がPlug-inの表示領域で、ソースとコンテンツの運動を制御するためのUIが表示される(ビデオ映像のオーバーレイ表示も可能)。

また、音楽CDとの連携⁽³⁾では、1997年8月のサービス開始以来、数タイトルの音楽CDでコンテンツ提供サービスが行われた実績があり、今後も多くの対応コンテンツが公開される予定である⁽⁵⁾。

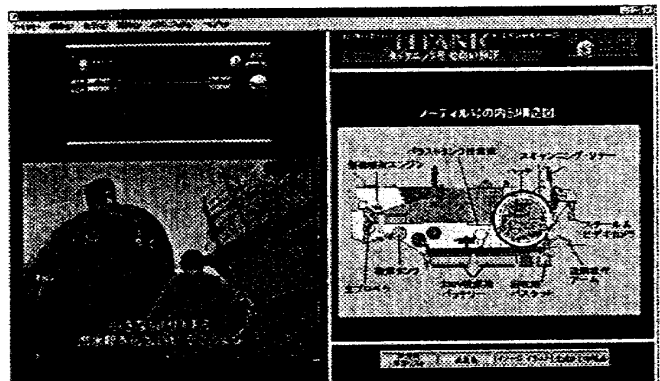


図2. WebSync のサービス実例

4.まとめ

本論文では、WebSyncの概要とその実用化例について述べた。今後は、対応メディアの拡張による広範なメディア間連携を進めていく予定である。また、既存のメディア資産をそのまま利用できるという利点を活かして、放送業界、音楽業界等の各種コンテンツ業界へのWebSyncシステムの適用を進めていきたい。

参考文献

- 1 Matoba, Oizumi, Maeno: "WebSync: A System for Synchronization of Analog Sequential Media and WWW", IEEE PROMSMMNet'97
- 2 大泉, 的場, 前野 "TV番組-WWW連携システム WebSyncの開発", 情報処理学会第55回全国大会
- 3 大泉, 的場, 前野 "音楽CD-WWW連携システム WebSync/CDの開発", 情報処理学会第56回全国大会
- 4 <http://www.meshnet.or.jp/websync/>
- 5 <http://www.neic.co.jp/websync/>